



いせ 平和委員会通信

2011年7月5日

伊勢地区平和委員会
伊勢市一之木 4-12-16
よろず会館内
発行責任者：向井慶和

核兵器のない世界求め

伊勢から松阪へ元気に行進



大災の被害支援
自然エネルギーへの転換を

6月13日、伊勢地区の国民平和大行進が実施され、核兵器の廃絶と原発の廃止を訴えて、伊勢市から松阪市へ元気いっぱい歩きました。前日までの雨が上がり、暑い日差しのもとでの行進になりました。



鈴木伊勢市長

鈴木健一伊勢市長の激励あさいさつをうけました。

出発集会には約50人、行進には常時20〜30人が力強く行進しました。伊勢市役所での出発集会では、

伊勢市駅前から旧参宮街道をたどり、昼食休憩の明星駅前では、中井幸充明和町長、北岡泰町議会議長の出迎えあさいさつをうけました。松阪三角公園で松阪市側に



伊勢市駅前を歩く

引き継ぎ、松阪駅前解散しました。

原発の反面教師たれ

福島第一原発の放射能漏れ事故は、日本を人類の反面教師にしたのか。それとも模範生にするチャンスを与えたのか

東日本大震災直後に被災者たちが見せた「忍耐強さ」「冷静さ」「思いやり」などに、世界各国から称賛の声が寄せられました。

こうした称賛も福島原発事故の処理が長引くにつれ「日本の対応は本当に大丈夫か」との見方になりました。ドイツ、スイス、イタリアが相次ぎ「脱原発」に転じたのも、福島事故を反面教師と認識したからにはかなりません。

原水爆禁止世界大会へ

8月、広島・長崎で原水爆禁止世界大会が開かれます。

「核兵器のない平和で公正な世界」をテーマに、東日本を襲った巨大地震と津波・福島原発の爆発事故の被災者救援、復興の努力と連帯しながら、世界の平和運動、各国政府の代表と草の根の代表が一堂に会します。あなたも、ぜひご参加ください。

◎世界大会―長崎 8月7日(日) 15:30〜9日(火) 13時

日本がこうした「反面教師」状態から脱して「模範生」になるためには何が必要でしょうか。

目途が立たない放射能汚染水の処理を含め、東電側に不利な状況も内外に明らかにすること。東電や首相官邸などの発表が迅速かつ全面的に信頼がおけるものだったら、世界に広がった風評被害をはじめ「日本への信頼度」低下は、もつと防げたに違いありません。公開第一、つまり、とことん「原発の反面教師」に徹することが、日本への信頼回復にもつながるのです。

問題はもう一つ。「浜岡原発はノー。他の原発はイエス」では新エネルギー政策の方向が不明です。菅首相は原子力発電をここ十年程度で卒業する過渡的エネルギーと明確に規定し、原発に代わる新エネルギーへの青写真と実現過程を内外に示すべきです。

それ以外に、日本が安全最優先型社会のトップランナーになる道は残されていないのではないのでしょうか。

(7月3日 中日新聞)